



The letter of
Shinseisakuza

kunlapopolo・・・人々の中で人々と共に・・・



新制作座だより

vol.17

2018 AUTUMN

<http://www.shinseisakuza.com>

皆様のご支援で
ついに行って来ました!
熊本へ!!



「ドラマティックリーディング」

がんばろう熊本 復興応援公演

— 11月5～9日 熊本県チャリティ公演 —

全

5日間、小中学校と特別支援学校の10校、9ス
テージの公演は文字通り東奔西走の日々でした。

初日の、2016年4月の大地震の震源地、益城町
「益城中央小学校」にはRKKテレビが入り、その日の
ニュースで放映。その午後の「白坪小学校」には熊本
日日新聞社が来て、翌朝の新聞に掲載。両校共に大変
に喜んでくださり、素晴らしい滑り出しになりました。

2日目の「川尻小学校」は8時半開演。『泥かぶら』
を演じる小津和穂は衣装を着付けての出発。午後
の「矢部小学校」では、今月勉強している歌が「故郷」
という事で一緒に大合唱となりました。終演後、
通潤橋を見に行き、震災で応急処置されていたも美
しい橋に感慨深いものがありました。

翌日は、全校で74人という「南阿蘇町中松小学校」。
行く途中で通った、最近復旧した長陽大橋の周りの凄
まじい崖崩れの様と、そこを彩る紅葉と清流に驚きと
同時に感動を覚えました。こここそ故郷そのものと思
い、一緒に歌いましょうと提案すると、小学生が歌う
のは、嵐の「ふるさと」ということ。私たちはその曲を知
らないので、74人に歌ってもらいました。その天使のよ
うな歌声は、傷ついた故郷への想い、愛が溢れていて、
劇団員は皆目頭を押えていました。そしてこの日は午
後公演がないので阿蘇山火口に登りました。遙かに
見下す火口の驚くべき姿に仰天。帰りは雄大な大自
然の中を走り抜けて、素晴らしい中日となりました。

4日目、午前は「託麻東小学校」1000人。午後は

「龍田^{たつだ}小学校」700人の観劇。気温が24度にもなろうという日。暗幕を張り廻らせた中で暑さが心配されましたが無事終了。演者たちは退場する子どもたち全員とハイタッチして送り出しました。

最終日。みかんで有名な河内校区の小中学生250人が一緒に観る日。自治会、婦人会の協力もあって大人も観劇することに。そして、これも恒例となった衣装を着たままの移動。そこは「県立熊本がやきの森支援学校」『泥かぶら』の演技と客席との深い交流が生れてゆきました。次のソーラン節のため会場が明るくなると、張ち切れんばかりの笑顔がこちらを見つめていました。一緒に手拍子をし歌い踊り、いつまでも手を振り合い、別れを惜しみました。先生方の「あんな笑顔初めて見ました」という言葉が忘れられません。

こうしてやり終えた熊本公演。舞台と客席、その間を繋いだ方、支援をくださった方、大勢の人々の熱く温かな心と身を尽してくださったことの全てが、この日々を作ったと、深い感謝を捧げます。皆々様ありがとうございます。

(記・熊本出身江崎はんな)

「演劇体験教室」

始めての出前授業

— 東京都立南多摩

中等教育学校 —

9

月9日 八王子市内、南多摩中等教育学校の文化祭「南

魂祭(なんたまさい)」に行ってきました。

学校の年間行事の中でも生徒たちが最も力を入れて準備し、発表するこの文化祭は6年生にとつては最後の行事。各クラスが演劇の発表をするのが恒例だそうです。

どのクラスの出し物も私たちが伝えた事を参考に工夫されていて生徒さんたちの熱い思いが伝わって来る作品になっていました。

この日に先立つ7月10日、私たち劇団員が学校に行き、各クラスに別れて演劇の基本授業をさせていただきました。演劇担当の小林先生からは、卒業していく生徒たちにとっては最後の行事なので、少しでも良い作品にする役に立てば、とのお考えでこの依頼があり、実現しました。事前に質問事項を貰い、それに答える形でやりましたが、生徒さんの質問に答えて行く内、伝える方も聞く方も熱

くなり、あつという間に時間が経ってしまいました。

もつと伝えたいもつと聞きたいという想いを残し、授業は終わりました。その日から2か月。尋常で無かった今年の夏の暑さの中で稽古をし、それぞれの分野で工夫して創り上げた舞台はきつと生徒たちの素晴らしい思い出となつたに違いありません。

劇団にとつても初めての試みでしたが、これからもつとこういう機会を増やして行ければと思わせてもらえた今回の出前授業でした。

(記・山形久人)

「ドラマティックリーディング」

それぞれの想いを感 じ合う、灼熱の公演

— 7月12日 星槎国際福井

20日 熊本市民会館

〃 慈愛園ホール

22日 立正佼成会神戸教会

獄

暑と呼ばれる想定外の暑さの7月。ドラマティックリーディングの公演も、熱気を帯びながら出発です。

まずは星槎国際福井。星槎国際八王子の演劇専攻メンバーが同

行していたこともあり、ワークシヨップまで和氣藹々^{あいあい}と盛り上がりしました。終演後に生徒さんが、自分の想いを訥々^{とつとつ}と語る姿が印象的でした。

続いて、2週間後の熊本公演。未だ街からは震災の爪痕の深さを感じます。

婦人会の皆様が熱い想いで作ってくださった公演で、終演後に「11月に必ずまた来て、もつと沢山の熊本の人たちに見せてあげてください!」と、目を真っ赤にしなから、握手を求めて来てくださったことが今でも忘れられません。

次の会場、慈愛園では元気な子どもたちが迎えてくれました。様々な境遇にある子どもたちの真っ直ぐな目を感じると、嘘のない深い心で表現しなければと身



7月22日 立正佼成会神戸教会公演

が引き締まり、得るものの大きい舞台となりました。

その高まった想いを持って臨んだ立正佼成会神戸教会の公演は、演劇『泥かぶら』大阪公演を観劇された方も多く、期待を持ってご準備、ご鑑賞くださいました。广大で荘厳な会場の遠い客席からも、物語へ気持ちを送ってください。お客様の熱意が演者を包み込み、会場内に温かい空気が満ちていました。

コンパクトであるが故に、リーディングメンバーと主催者やお客様との距離が近くなり、携わる皆様の想いを強く感じられること、演じる喜び以上の喜びであると再認識出来た夏のツアーでした。

(記・上杉綾)

「泥かぶら」

しつとりと優しい

福井の町で思うこと

— 7月13日 福井県

啓新高等学校 —

泥

かぶら』懐かしい福井の町に帰ってまいりました。

最近経営部が痛感していることに、芸術鑑賞担当の若い先生は、



立ち寄った東尋坊にて

新制作座を殆どご存じないということがあります。昔ほど上演回数が多くないので、評判や感想を聞く機会も少なくなっています。そんな中、資料を隅から隅まで読み、「間違いない、ピンとききました」と決めてくださった啓新高校の先生は、6月、東京までわざわざ『泥かぶら』を観に来られました。

鑑賞会当日の客席は、生真面目でしつとりと優しく堅実な福井の人気の良さを感じました。経営部は、先生が安心して作品を選ぶように、直接舞台をご覧いただく機会を各地でつくります。『泥かぶら』は、初演から66年上演を続けています。最近よく「古典作品になりましたね」、「うちの生徒は古典に疎いから心配です」と言われますので、小学校・中学校・高校

向けの事前学習用テキストの充実と、各幕にナレーションを加えました。時代を超える名作を現代に生き生きと輝かせていきたいと念じています。(記・小津和知穂)

「泥かぶら」

大人と少年が 相和した客席

— 10月12日

群馬県立沼田高等学校
沼田利根ライオンズクラブ
50周年記念公演 —

秋

たけなわ。関越道を走る車の窓の左手には上毛の山な

み。正面には雄大な赤城とその裾野が長く尾を引く。空一面に広がる雲の、紫を基調にした多彩な色どり。7年振りに目前にする美事な光景に息を呑んだ。目的地は利根沼田文化会館。沼田利根ライオンズクラブ(以下、L・C)創立50周年記念と県立沼田高等学校の演劇鑑賞会として『泥かぶら』公演が待っていた。L・Cの大島正義さんは、この公演の実現のために8年間も奔走し続けられた。沼田高校の林校長先生は「沼高百年史」をひもとかれ、新制作座が60年ほ

ど前に『野盗風の中を走る』と『泥かぶら』を上演したことを知って、その縁の深さに驚かれたという。450名の高校生に、L・Cの皆さんが集めてくださった一般のお客様も合せて、900余の客席は満員になった。開演すると客席の反応は素晴らしかった。若い世代と年輩の方々とが渾然一体となり、渦をなして高まつていった。大成功だった。

沼田は林檎の名産地。L・Cの皆様や沼田高校の先生方が今回蒔かれた種が、やがて豊穰な土地に培われた新世界の果実となって美しく実るだろう。感謝の1日だった。(記・福島まゆみ)



沼田利根ライオンズクラブメンバーとロビーにて

「泥かぶら」

公演は愛の贈りもの

— 10月16・17日

群馬県みどり市公演 —

懐

かしいみどり市。まず私の胸を焦がすのは前市長の石原条氏、私は「龍馬さん」と勝手に呼んでいた。それほど闊達な人柄だった。そして感性豊かな石井逸雄学校教育課長。身長1m

92cmの巨漢行動派の園田主事はじめ、教育委員会の皆様、そのやさしさは心にしみた。行政も教育も人間に対するやさしさ、愛情が基本だと込み込み教えられた。そしてこの方々のお力によって、まだ東日本大震災の記憶がナマナマしい中で、2012年に市内全中学生を集めた第1回目の『泥かぶら』公演が大成功裡に終った。

3年後、病いで体が不自由になった私を、今度は劇団の皆が支える様にして、みどり市に連れて行ってくれた。石井課長は教育長に栄転されていた。そして2度目の中学生公演も成功したのだった。

6年後の今年、残念ながら新市長さんにはお忙しくてお目に掛かれなかったが石井教育長は2

階の執務室から駆け下りてこられて迎えてくださった。「1回目の公演を見た生徒たちはもう大学生か社会人になっているのですね」と感慨深げに語られた。

みどり市の3年毎、3回目の公演は、大人が、教育者が、子どもたちに「健やかに育つてほしい」と願う愛の贈りもののなのであった。よき市、よき人、よき心、みどり市にお栄えを。
(記・福島まゆみ)

「ドラマティックリーディング」

まわりの人の心も

美しく変える

— 10月18日 山梨県

韮崎市立韮崎東中学校 —

高

尾のインターから中央高速を西へ西へ、一時間もたつと懐しい懐しい世界が広がってきた。以前、新制作座の山の家があり、一年に何度か劇団員皆で学び遊び、共に過ごした韮崎。

その韮崎市の韮崎東中学校でドラマティックリーディング『泥かぶら』『八郎』の公演を行いました。以前、演劇『泥かぶら』を観ていただいたご担当の先生からの申し込みで実現しました。山梨県で

初めてのドラマティックリーディング。どう受け止められるか楽しみでしたが、生徒さんご父兄合わせて約600名が真剣に舞台と向き合ってくださいました。後日先生よりお礼のメールをいただき、その中の1人の女子生徒の感想文を掲載させていただきます。

私は、「泥かぶら」と「八郎」のお話を聞いて、語り手さんの表現力の豊かさにとっても感動しました。「舞台には1人しかいないのに、何人もの声が近くから遠くから聞こえてくる」あの表現力に圧倒されました。お話の中で特に印象に残っているのは『泥かぶら』にでてきた人買いのおじさんが泥かぶらと出会うことで気持ちが変わっていくところです。「美しくなろう」と思っていた泥かぶらは人買いのおじさんを心から美しくさせたのだと思いました。本当の美しさとは何なのか考えさせられる朗読劇でした。

1人の変化はまわりの人の心も変えていくという事でしょう。とても嬉しい感想文でした。

(記・木村幸子)

「泥かぶら」

美しい背中

— 10月30日 福岡県

筑紫女学園中学校 —

肌

寒くなってきた10月下旬、舞台の後ろに仏様がいらっしやる講堂にて『泥かぶら』を上演いたしました。

講堂があるのはなんと3階！劇団の若いスタッフも少し弱音を吐きつつ、晩飯カット！（笑）と言われながらも、搬入・バラシを乗り切りました。食べ物の力は大きい…。搬入・バラシの時、あれ？とても力持ちのスタッフがいる！と思ったら学校の先生が手伝ってくださいっていて、劇団がお借りし



筑紫女学園中学校 童役を演じた生徒たちと

た所も一緒に掃除してくださいました。先生方が率先して行動される校風のとおり、すばらしく床も鏡のようにピカピカです。校長先生がお話の中で、「綺麗は、お化粧などをして得るもの」「外見のキレイ」。美しいは心を通して得るもの「内面の美しさ」と言われました。

生徒に「美しい」を自らの行動を通して背中で語る先生方に「本当の美しさ」を教えていただいた公演となりました。

(記・福島里佳)

「泥かぶら」

旅の感動と公演

— 11月1日 熊本県

八代白百合学園高等学校 —

公 演前日は移動日で時間があつたため、熊本城と阿蘇山にプチ観光をしました。この観光が次の公演を表現するエネルギーに繋がるのではないかと信じ、俳優としての五感を働かせながら行動を心がけました。

先輩俳優に熊本城の歴史をご教授いただきながら見学し、熊本城の震災の跡を初めてみました

が、建物の無残な姿に地震という自然の驚異を目の当たりに感じました。

次に阿蘇山大観峰を訪れ、道中のミルクロードのすずき、牛の放牧、大自然の山々、美味しい空気どれも素晴らしかったです。自然のエネルギーに心が開き、明日の公



阿蘇山大観峰にて



八代白百合学園の先生と童役を演じた生徒たち

演の肥やしになるのではと深く感じた1日でした。

公演当日、八代白百合学園高等学校の生徒さんはとてもあたたかい客席でした。一つ一つの役者のやり取りに反応をしている様子でした。生徒さんの貴重な時間、この演劇で一人一人の心に何か残れば嬉しいです。(記・藤間亮)

「ドラマティックリーディング」

楽しい90分間

— 11月10日 福岡県

福智町立市場小学校 —

朝

の1時間目から子どもたちの元気な声が聞こえた。

先生の諸注意に対して澄んだ声、まるで天使が降りてきたようななんともかけがえない声音。福智町立市場小学校の公演は、とにかく大きな声で返事が帰ってくるのが印象的でした。

今回は、福島里佳の進行でスタートし、『八郎』『泥かぶら』と始まりました。私は照明を担当していましたが、特に低学年の生徒の反応が面白く、鳥の声など予測のつかないところで笑ったり反応したりと、眺めているのが本当に楽

しい客席でした。

休憩後、

歌と踊りのところでは特に「ソーラン節」の掛け声が非常によかったです。踊りの時は客席で一緒に手の動きをしてくれて、もう少し時間があれば一緒に踊れていたのに、と少し心残りでしたが、童心に帰った楽しい90分間でした。

(記・亀川忠助)



「ソーラン節」に合わせた掛け声のレッスン

「イベント」

星槎高尾キャンパス
杉渕友基さんより

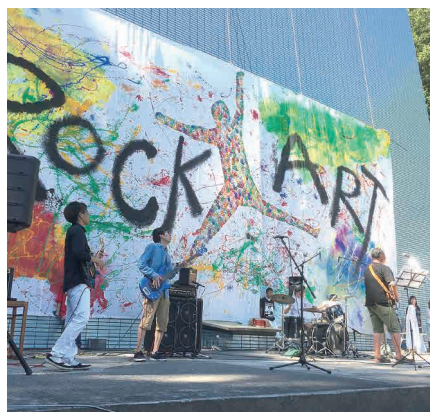
タカロック2018

史上最大を目指して

8 月26日 高尾キャンパスでは、40度に迫る猛暑の中、毎年恒例のTAKAO RockFes. (以下、タカロック) が開催されました。タカロックとは、夏の終わりに行わ

れる、盛大な音楽フェスティバルです。大きな野外ステージとさまざまな屋台が立ち並び、その年の夏を最高の盛り上がりで締めくくります。

私は毎年、出演者との交渉、機材管理、当日の音響などメインステージの統括をしています。今年も史上最大を目指し、全国8校舎から星槎の仲間たち、保護者、卒業生に加え、他校の軽音部やインディーズで活躍しているバンドまで総勢37組100人以上の方に出演いただきました。並みのフェスよりも多い出演者数ですが、スタッフの生徒たちは自分の出演もある中、猛暑にも負けずに司会・音響・転換の仕事をしつかりとこなして、顔を真っ赤にしながらも、どうにかやり遂げることができました。



TAKAO RockFes 2018

また屋台では、毎年恒例のからあげや手打ちうどん、浜松の校舎からやつてきた浜松ラーメン、OB会からはジンギスカン丼、ポップコーンやあんみつ、クレープ等など、数多く出店し、その多くに生徒がスタッフとして参加し、調理に売り子に頑張っていました。

他にも新制作座によるバザーや、保護者による喫茶店、鉄道オタクの生徒たちによる討論会などなど盛りだくさんのイベントとなりました。来年度は、また今年を超えるタカロックになりますので、皆様のご来場をお待ちしております。

「イベント」

SEISA ARTS CAMP IN TAKAO 2018

8

月28日から9月1日まで4泊5日の日程で開かれた、

星槎国際高等学校の第2回となるARTS CAMPに演劇の指導教員として参加しました。「共生のための創造性の共有」をテーマに、楽器、歌、演劇、美術、映像、ダンス、料理等がジャンルや専門を超えてクロスオーバーし、最終日の発

表を目指すというキャンプだ。ブータンとエリトリアの留学生を含む21名の高校生と専攻科生が暑さに負けず熱い心で取り組んでいたのが印象的でした。

演劇チームは、ダンスのメンバー1人に加え、立体詩(詩を朗読するのではなく、身体表現を加え吟ずる)に挑戦しました。また、美術のライブペイントにダンスと演技を加えて参加しました。

星槎大学のリチャード・ゴードン教授、安久津太一先生を中心に生徒たちは国籍、学年、所属校をこえて交流し関わり合い、学び合います。もしかすると私が一番勉強



8月31日 発表会の集合写真

になったかも知れない真夏の5日間でした。(記 眞山 蘭里)

《参加した演劇専攻科生の感想》

◆ 指宿 理乃

何も知らない状態で集まった日から、とにかく演劇と向き合う毎日。初対面の子たち、海外の子たちと生活を共にする毎日。演劇だけでなく、ダンス、歌、楽器、絵、どんどん新しい世界に飛び込む毎日。共生の意味を考える毎日。芸術とは何か、私はなぜ演劇が好きなのか、役者になりたい自分を見つめる毎日でした。私は、心の内を表現すること、に生き甲斐を感じます。色んなアートをスポンジみたいに吸収し、自分の原点を思い出したARTS CAMPだった。

◆ 植村 アンジェラ 美貴

専攻科2年の私にとって最初で最後のアートキャンプでした。1から作品を作り、仲間と話し合いながら完成させていくワクワク感であったり、やりたい事が噛み合わず少し衝突したり。色々な事がありました。最後にやってくる達成感が凄いい気持ちになりました。

◆笹竹ひかり

初めてのアートキャンプ。初めてだから何をやるのかわからなかったが、楽しかった。

演技の勉強をしながら初対面の子たちと友だちになり、仲良く練習をして一緒に本番の舞台に立ち、最後一つも間違えることなく気持ちよく終わった。それが楽しかった理由。もう一つ、自分は本番に弱く自信が無かった時に周りの人たちが「大丈夫だよ。君ならできる。」と、勇気付けてくださったので嬉しかった。アートキャンプに参加してよかったと思った。

◆田中大

端的に感想を言うと、非常に流動的な行事でとても有意義な時間を過ごせました。参加しているメンバーは当然だけど全員が知り合いではなく、当日初めて会った人もいて「ものを作る」以前に、ちゃんと「コミュニケーションを取れるのか」なんて事を不安に思っていました。でも、いざ「アートを作る」となったら、他人とかそういうのは関係なく、全員が協力し合えてアートの魅力のようなものを強く感じました。

「国際交流」

国慶節のレセプション

9月27日 ホテルニューオータニで、中華人民共和国のナショナルデーと日中平和友好条約締結40周年を祝うレセプションが開かれました。

程永華大使閣下は、「私が来て10回目の会になります。」とおっしゃたのはびっくり、月日の経つのは早いものです。私たちとも長いお付き合いとなりました。

(記・眞山蘭里)



程永華大使閣下を囲んで

日々基礎稽古

毎週土曜日に日本舞踊や歌を稽古しています。身体の使い方や発声など、役者として必要な技能を習得する貴重な時間として、劇団員、研究生共々、日々励んでいます。

「ゆかたざらい」

今夏、七夕の日に新制作座の大広間で「ゆかたざらい」*がありました。披露したのは、劇団員と星槎国際八王子 演劇専攻メンバー、そして師匠である眞山蘭里代表(名取名・藤間晃保)の計7名。

過去に習った曲目から何を披露するか考えたところ、最初に教えていただいて印象に残っていた、長唄の「松」を選ばせていただきました。難しい踊りでしたが、師匠に補習…もとい個人稽古を、お忙しい中、夜中までつけていただき、何とか本番で踊り通すことが出来ました。

他のメンバーも、必死に自分の曲目を踊り、普段の稽古の成果を自分なりに確かめる事が出来たと思います。百回の稽古より一回の本番と言いますが、本当にその通りだとつくづく感じた一日でした。

このような機会を与えてくださった諸先輩方に心より御礼申し上げます。

来年頭には初舞を行う予定です。ので、今度はそちらを目標に、日々の稽古に励もうと思います。

(記・高城忠義)

【演目】

「基本動作」…… 笹竹ひかり、田中大
「不老門」…… 植村アヅシエラ美貴
「花」…… 指宿理乃
「壽」…… 指宿理乃
「松」…… 植村アヅシエラ美貴
「祝いづくし」…… 高城忠義
「祝いの舞」…… 亀川忠助
「長生の舞」…… 藤間晃保

*ゆかたざらい

日常のお稽古である浴衣で、おさらいすること。日頃の稽古の成果を身内などで小規模に発表する会のこと。



星槎国際八王子演劇部

《八王子学生演劇祭2018》出演のお知らせ

動き始めたばかりの演劇部が、なんと！八王子いちようホールの舞台に立つことになりました。自分たちで作品を選び、稽古が始まりました。まだ・・・海のものとも山のものともわかりませんが、やる気だけは誰にも負けていません。どんな舞台になるのか、乞うご期待！

新制作座の劇団員たちが、演劇ゼミを通し、この若者たちを応援しています！

観劇ご希望の方は、劇団 新制作座までお申込みください。

作:土田 英生 演出:赤磨 瑞子

『燕のいる駅』

時は、近未来。燕が巣を作る春。海に浮かぶ埋め立て地。昔の日本の街並みを再現したテーマパーク「日本村4番」の駅の待合室に残された若者たちの物語。

星槎国際八王子演劇部 出演日

2018年12月23日(日) 開演 14:00

会場: いちようホール(小ホール)

東京都八王子市本町 24-1

<http://www.hachiojibunka.or.jp/icho/>

入場料: 500円

お申込み: 劇団 新制作座

ページ下部のeメール又はfaxにて、住所・氏名・連絡先を明記の上、お申込みください。(限定280席)



《八王子学生演劇祭2018》のチラシより



チラシデザイン: 笹竹ひかり

2018年 新制作座恒例クリスマスパーティ

演劇部の公演と時期が重なるため、クリスマスパーティの準備が間に合わないことを今から心配しています。しかし、毎年「楽しみにしています」とのお声もあり、23日の終演後にしようかなど話し合っているところです。

2019年 初舞のご案内

日時: 1月12日(土) 開演 14時 会場: 星槎高尾キャンパス大広間
新しい年の始めを祝う日本舞踊の発表会です。入場無料

NEWS

青果生誕140年記念 企画展

『檻(おり)』—真山青果との友情



『檻』—真山青果との友情
チラシより

真山青果生誕140年を記念して、石川県金沢市の「徳田秋聲記念館」で企画展が開かれています。

青果は、大正期に秋聲作品の舞台化を手がけ、生涯を通じ交流をもちました。展示では、この「友情関係」についてご紹介し、星槎グループで保管している青果の資料の一部も展示されています。

記念館は徳田秋聲が生まれ育った地域にあり、古都金沢の面影を色濃く残す茶屋街に隣接し、情緒あふれる浅野川の景観が楽しめます。ぜひお運びください。

会期:

2018年11月2日(金)～2019年3月10日(日)

※12月29日(土)～1月3日(木) 年末年始休館

徳田秋聲記念館

〒920-0831 石川県金沢市東山1丁目19番1号

TEL (076) 251-4300 FAX (076) 251-4301

開館時間: 9時30分～17時(受付は16時30分まで)

観覧料: 一般300円、団体(20名以上)250円

65歳以上200円、高校生以下無料